
そして人はいなくなっちゃいました [その9]

ゆらら

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

そして人はいなくなっちゃいました 「その9」

【Nコード】

N4553R

【作者名】

ゆらら

【あらすじ】

聖魔光闇さまが発案されたりレー小説の9話目です。

以下は、1話目のあらすじより抜粋、引用させて頂きました。

普通の間管理職の男。彼は仕事を終え、家路につく。しかし、そこには予想もしない出来事が……

(前書き)

←併せてご覧下さい

1 話目..聖魔光闇さま <http://ncode.syosetu.com/n3089r/>
2 話目..真野優さま <http://ncode.syosetu.com/n3101r/>
3 話目..日下部良介さま <http://ncode.syosetu.com/n3133r/>
4 話目..大塚紗也さま <http://ncode.syosetu.com/n3372r/>
5 話目..ふえにもゐるさま <http://ncode.syosetu.com/n3460r/>
6 話目..円藤さま <http://ncode.syosetu.com/n3494r/>
7 話目..Miyukiさま <http://ncode.syosetu.com/n3718r/>
8 話目..MOWさま <http://ncode.syosetu.com/n4404r/>

本作は、9 話目です

そうだ、確か……

僕は、記憶の糸を手繰り寄せ、懐かしい同級生の顔をひとりずつ思い出していた。

会わない期間があまりに長かったから、すぐには気がつかなかったのだが、いずれも小中学校時代とともに過ごした大切な友人たちだ。懐かしい面影は、そのまま残っている。

だが、皆、話し方というか口調まで変わらないのは、性格も変わっていないということなのだろうか。

なにか不思議だ。

あれから、十年以上も経っているのだ。当然いろんなことがあったはずなのに。

自分のためにつくられた偽者、ってどういうことだ？

疑いを抱いた途端に、眼前の光景が水で薄めたように滲んで、かき消えてゆく。

はっとする。

まどろんでいた意識が急速に覚醒するような感覚。

気がつけば、小学校の校庭の桜の木に背を凭れ、その根元に腰を降りている自分がいた。

傍らには、いくつかのビール缶が空になって転がっている。

何時間かまえに、客も店員の姿もない無人のコンビニから頂いてきたものだ。

その後、酔って眠り込んで夢でも見ていたのだろうか。

どこからどこまでが現実なのか、どこが夢の始まりで終わりなのか、すべて嘘であってくれたら、どんなにいいか……

不自然な体勢を長く続けていたためか、身体の節々に痛みを感じる。その痛みだけは、紛れもないリアルな感覚だった。

僕は、上着のポケットから携帯電話を取り出し、半ば期待しながら、半ば諦めながら、発信履歴を辿り、順にボタンを押していった。

「おかけになった番号は、現在電波の届かないところにあるか、電源が入っていないため……」

最後までアナウンスを聞かずに、次の番号に架けるが、妻、友人、会社、親、昨日と同じで、どれもつながらない。

やがて、ピピッ、ピピッ、と電池切れを告げる勘に障る電子音が響き、どうにもならない怒りと絶望にまかせて、それをグラウンドに思い切り投げつけた。

ガシャッ。

自分の過去が壊れる音だった。
僕にとって、親しい人が消えるということは、過去が消えるのと同じ意味だったのだ。

昨夜はただ消滅する恐怖から逃れたい一心で、安全な区域へと向かったが、今は、たとえばこの世界に己の肉体が唯一残ったとしたら、そのほうが恐怖だと思う。

これが悪魔の仕業であっても、神の裁きだとしても、いつそのこと、今すぐ、僕も消して欲しい。

そもそも、なんでこんなことが起きたんだ？

僕が、そう望んだ結果だということのか？

それとも、すべて仕組まれたことなのか？

それは、ほんの閃きだった。

家族を含めた人々が消えた時間、自分は大阪府内にはいなかった。人がいない現象に気がついてから兵庫県へと向かい、県内に足を踏み入れて暫くして、母子が消えるのを目撃した。

つまり、時間と場所は少し違うが、大阪府と兵庫県との境目付近に居たわけだ。

最初は仕事で伊丹市とその付近。後はJR線路沿い尼崎市とその付

近。

両市は厳密にいうと兵庫県なのだが……

間違っ、て、というか大雑把に、大阪府として認識される場合がある。

隣接しているし、兵庫県っぽくない感覚がある。

尼崎の市外局番は大阪市と同じ06だったり、伊丹には大阪空港があったりするからだと思うが、たしか、伊丹では、もう人の姿を見た記憶がないし、尼崎にもすでに人は居なかった。

ということは、実は、この現象を引き起こしているモノは、思い違いか間違いをしていることになる。

都道府県別、という秩序ある区分けが、正確ではないのだ。

神格ではない。非常に人間的、というより幼稚……？

ごく最近。誰かのそういう間違いを正してあげたような気がするが……

チャリリ。ガサリ。

そのとき、鎖を引きずる音がして、背後の桜の木の陰に小さな人の気配を感じた。

「○○ちゃん」と名前を呼ぶ。

その人物を、僕は知っていた。

意外ではなかった。

「きみは、たくさんの人をどこに消したの？

そして、なぜ夢や幻を僕に見せているの？」

怒らないように、できるだけやさしい言い方で尋ねる。
相手は、まだ小学生なのだから。

「パパ、どうしてわかったの？」

「その10」につづく

(後書き)

これはリレー小説です。

進捗状況、その他について詳細は、聖魔光闇さま宛お問い合わせください。

第10話は、雪人さま執筆予定です。
よろしくお願い致します☆

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4553r/>

そして人はいなくなっちゃいました [その9]

2011年3月8日21時46分発行